

— デジタル教科書の意義 — 検定の立場からの考察 —

法政大学名誉教授

鈴木佑司

教科書の意義・役割

- 昭和58年6月中央教育審議会の答申：

「教育課程の構成に応じて系統的に組織配列された各教科の主たる教材であり、**児童生徒に国民として必要な基礎的・基本的教育内容の履修を保障するもの**」

教科書の質の担保と検定の役割

- これまでの「教科書改善」への基本的方向性
(「検定基準の改善」「検定手続きの改善」「発行者における著作・編集の在り方の改善等」をふまえ)
 - (1) 基本法の目標を踏まえた改善
 - (2) 知識・技能の習得、活用、探求に対応するための質・量両面での格段の充実
 - (3) 多面的・多角的な考察に資する公正・中立でバランスの取れた記述
 - (4) 記述の正確性の確保
 - (5) 児童生徒が意欲的に学習に取り組むための編集上の配慮・工夫
 - (6) 検定の信頼性を一層高めるための手続きの改善

例) 高校公民科にとっての固有の問題

公民科では各教科共通の条件を満たしたうえで、特別の配慮がもとめられる

- (1) 未確定な時事的事象について断定的に記述したり、特定の事柄を強調し過ぎていたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするところはないこと。
- (2) 近現代の歴史的事象のうち、通説的な見解がない数字などの事項について記述する場合には、通説的な見解がないことが明示されているとともに、生徒が誤解する恐れのある表現がないこと。
- (3) 閣議決定その他の方法により示された政府の統一的な見解または最高裁判所の判例が存在する場合には、それらに基づいた記述がされていること。
- (4) 近隣のアジア諸国との間の近現代の歴史的事象の扱いに国際理解と国際協調の見地から必要な配慮がされていること。
- (5) 著述物、資料などを引用する場合には、評価の定まったものや信頼度の高いものを用いており、その扱いは公正であること。

検定 — 実務上の困難

- **多様なニーズに多様に応える**ことを旨とする検定制度は、その運用に関して本来抑制的であるとともに、正確、公正、バランスの取れた教科書を提供することが使命。基準として**定性的な方法**(基本的公正に重大な欠陥があるなど)と**定量的な方法**(検定意見がある数値以上となる)で行政処分である合否の確定をすることが求められる。
- その手続きは厳格な不偏不党性が求められると同時に、申請から採用までほぼ4年を一周期とする長期のプロセスであることを考慮し、できるだけ**簡素化、透明化**を図ることが求められる。
- しかし別紙にあるように、**時間的には極めてタイト**である。

デジタル化への対応

- 「指導者用」であれ「学習者用」であれ、検定という視点からすると、現在の教科書にとって代わる新たな教科書とするには多くの問題がある。第一は、膨大な情報量を内包するだけでなく変化の激しい情報を扱う点で、質量の両面で検定そのものが可能かという問題。
- 当分の間、「教科書準拠教材」として位置づけられよう。その際でも、「アナログ＋デジタル」併用とするなら、アナログ教科書と同程度の検定を必要とするのでは。特に「双方向性」の強いデジタル教科書の場合、正確、公正、バランスを常に担保することは可能か。
- 第三に、「指導者用」の効果として(1)わかりやすい授業、(2)高い自由度、(3)準備の効率化があげられている。(教科書協会、「デジタル教科書の現状と課題」) 対面教育による人格的触れ合い、個性の尊重といった教育の特徴に対して画一化を推し進め、かえって教育の格差を拡充することにならないか。「学習者用」の基準は何か問われている。

グローバル時代の問題

- 先に触れた社会科の場合、複数の国家にまたがる事象の取り扱いは慎重さを必要とする。しかも、デジタル情報は国境を簡単に超え、**相互の理解や協調**を損なうことがないような工夫をする必要が高い。
- 他方、自然科学の分野では日本の科学技術、とりわけ基礎研究の知見は極めて優れており、その**普及へのニーズ**な日本だけではなく、広くみられる。
- 日本の教科書であっても、少なくとも周辺の**アジアの国々との間で最低限必要な相互尊重のルール**を形成することが不可欠である。

今必要なことは？

- デジタル化の可能性を最大限に引き出すことが**合意できるところから始める**ことが望ましい。
- しかし、その場合でも、「学習者用」のものに関しては、対面教育を前提とする**「アナログ」型を補完する「教科書準拠教材」**にとどめることが望ましい。そしてその検定に関する合意（検定基準を含め）を形成することが必要である。
- 「指導者用」に関しては、教員と教員、教員と生徒、生徒と生徒の対話を促進し、多様な授業スタイルを可能とする自由度の高い授業を導き、教育格差の是正に資するものが求められる。それは「アナログ」型を超える質と量の情報を必要とする。その情報の正確さ、公正さ、バランスをどう検定基準化するか、**実務上どう可能とするか**が検討される必要がある。

教科書検定の手続

(根拠)

検定規則：教科用図書検定規則

